

いろいろな参加、
いろいろな出会い。



はじめよう。

世界の人々のためにできること、自分のためにやってみたいこと。

JICA (ジャイカ) は、国際協力をこころざす日本の人々をさまざまな参加メニューで支援しています。

海外に行って挑戦したい人も、日本でできることを見つけたい人も、

世界のために、自分のために、ぜひアクションを起こしてください。

それがむずかしいときは、気持ちだけでも参加してください。

国際協力にチャレンジしている人の大きなチカラになるように。

I. 国際協力に関心のある皆様へ	訪ねてみよう!	JICA施設訪問	3~4ページへ
	聞いてみよう!	国際協力出前講座	5ページへ
	参加しよう!	様々なイベント・セミナー	6ページへ
	行ってみよう!	JICA海外協力隊	7~8ページへ
	始めてみよう!	日本でできるボランティア	9ページへ
II. 教育関係者の皆様へ	考えよう!	中学生・高校生エッセイコンテスト	10ページへ
	行ってみよう!	教師海外研修	11ページへ
	参加しよう!	開発教育指導者研修	12ページへ
	活用しよう!	先生のお役立ちサイト	12ページへ
III. NGO・地方自治体等の皆様へ	やってみよう!	草の根技術協力事業	13ページへ
	組織力アップ!	NGOスタッフのための研修	14ページへ
	強化しよう!	NGO活動のサポート	14ページへ
IV. 国際協力に関する情報はこちらから	探そう!	国際協力のキャリア総合情報サイト「PARTNER」	15ページへ
	読んでみよう!	JICA図書館	16ページへ
	見てみよう!	JICAホームページ/ソーシャルメディア・メールマガジン	16ページへ
	相談しよう!	全国各地のJICA機関・国際協力推進員	17~18ページへ

JICA (ジャイカ)って何?

JICAは日本のODA(政府開発援助)の実施機関として、途上国の貧困、環境問題、感染症、紛争など開発におけるさまざまな問題解決に取り組んでいます。

グローバル化が進み、相互依存関係が深まる世界において、ODAは平和と発展に貢献しています。



草の根技術協力で動物の健康管理について学ぶ
マダガスカル共和国の研修員(JICA東北)



バブアニューギニアで助産師隊員として妊婦検診の
指導をする青年海外協力隊

あなたにも国際協力に参加できるチャンスがたくさんあります。



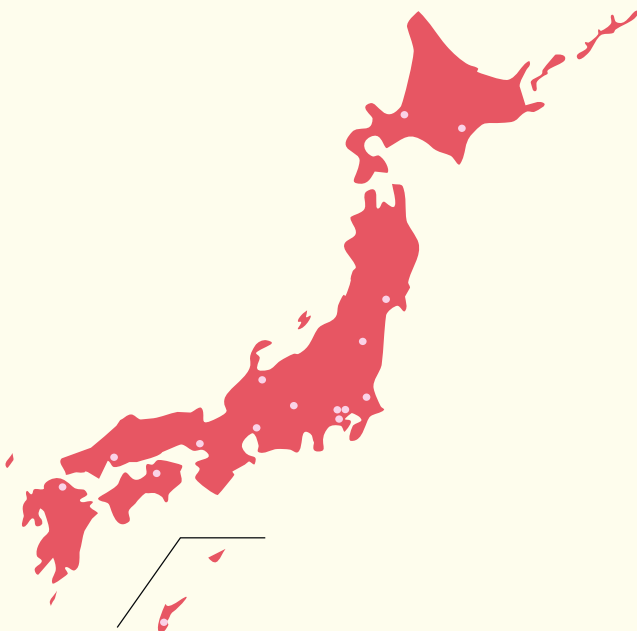
世界約100カ所に JICAの拠点があります

JICAは世界約100カ所に拠点をもち、150以上の国と地域で、各国のニーズに対応した事業を実施しています。

日本各地のJICA国内拠点が 参加の入り口です

地域ごとにJICA国内拠点があり、開発途上国の人々の研修をサポートしたり、皆様の国際協力活動への参加を支援する窓口として、さまざまな情報提供やイベント、セミナーなどを行っています。

(連絡先は17・18ページにあります)



I. 国際協力に関心のある皆様へ

訪ねてみよう!

修学旅行、校外学習、市民団体の勉強会などの機会に最寄りのJICAを訪問してみませんか。

JICAでは、日本と世界のつながりや、開発途上国に対する理解を深めてもらう活動をしています。

JICA 地球ひろば

JICA地球ひろばには、世界の人々の暮らしや開発途上国が抱える課題を知ることができる「体験ゾーン」や、各種イベントに活用いただける「交流ゾーン」などの施設があります。

体験ゾーン(展示・相談スペース)

世界が直面する多くの課題や、世界と私たちとのつながりを体験型展示で学び、地球案内人による説明を通じて開発途上国の現状や国際協力の実情について体感できる展示・相談スペースです。

なお、展示見学と途上国でのボランティア体験談などを組み合わせた団体単位での見学プログラム(要予約)も受け付けているほか、特別展示コーナーとして、一つの国を取り上げた国別展示と、企業や自治体等のパートナーによる国際協力活動紹介も隔月毎に実施しています。(予約不要、入館無料)



交流ゾーン(貸出スペース)

国際協力に関する写真展示、セミナー、ワークショップ、報告会等の場として少人数から200名までの会議などにご利用いただけます(有料で貸出)。施設のご利用にあたっては団体登録をお願いしています。詳しくはJICA地球ひろば地球案内デスク、またはホームページでご確認ください。



J's Cafe

ランチタイムには施設のイベントと連動した開発途上国のメニューを提供しています。また、立食パーティー、館内でのケータリング、団体訪問と合わせたお食事等のご予約も承っており、開発途上国で生産されたフェアトレードの商品も販売しています。



開館時間：交流ゾーン 9:00~21:30
体験ゾーン 10:00~18:00
J's Cafe 平日 10:00~17:00
土曜日 10:00~15:00
(ランチタイム 11:30~14:00)
休館日：全館 年末年始(12/29~1/3)
その他別に定める日(施設検査日等)
体験ゾーン 第1・3日曜日
J's Cafe 日曜日・祝日

住所：〒162-8433 東京都新宿区市谷本村町10-5
(各線市ヶ谷駅より徒歩10分)
連絡先：TEL 03-3269-2911(大代表)、0120-76-7278(地球案内デスク)
FAX 03-3269-5044
URL <https://www.jica.go.jp/hiroba/>
※詳しくは、地球案内人にご相談ください。

●JICAプラザ横浜

JICA横浜では、開発途上国の現状と世界の課題だけでなく、日本の海外移住の歴史と移住者・日系人の現在についても学ぶことができます。訪問学習も受け付けています。



民族楽器も体験できます!
国際協力が学べる展示スペース



展示物に自由に触れられます
海外移住資料館

海外移住資料館や図書資料室では、ハワイや中南米の日系人についてのカルタ、紙芝居、トランク教材等の貸し出しも行っていきますので、是非学習教材としてご利用下さい!

URL <https://www.jica.go.jp/yokohama/index.html>

その他の国内機関(17ページ参照)でも、多様なメニューを用意して皆さんをお待ちしています。
お近くのJICAへ是非ご訪問ください。

●JICAプラザ関西

JICA関西は、多くの市民が世界の課題に興味を持ち、国際協力に参加する人々を増やすことを目指し、JICAプラザ関西として、広報展示室・ロビー・食堂を一体的に運営しています。



食堂で提供する月替りエスニック料理



広報展示室

JICAの事業紹介やSDGs、そこから見える世界の文化や諸問題をテーマとした、「見て、触って、体験できる」体験型展示がいっぱいです。展示内容は定期的に更新しています。展示見学の後は食べて体験!開発途上国のエスニック料理はいかがですか?お気軽にお立ち寄りください!

URL <https://www.jica.go.jp/kansai/office/plaza.html>

JICA中部 なごや地球ひろば

なごや地球ひろばは、国際協力やSDGsについて学ぶことができる体験型施設です。

楽しみながら学ぶ

体験ゾーン

基本展「SDGs—未来につながる17の約束—」と、テーマに沿った企画展を交互に開催しています。



大小セミナールームを備え、イベントやセミナーを随時開催。外部貸出も行っています(有料)。

参加しよう 国際協力

活動ゾーン

はじめての歩 国際協力

買物ゾーン



世界各国から仕入れたフェアトレードグッズが購入できます。買い物を通じた、いちばん身近な国際協力ができる場所です。



世界の料理が楽しめる

食のゾーン

開発途上国の味が楽しめるグローバルなカフェレストラン「カフェクロスロード」。食事とおして、世界の異文化にふれられます。

開館時間：

体験ゾーン 10:00~18:00
活動ゾーン 9:30~21:30
買物ゾーン 11:00~18:00
食のゾーン 11:30~21:00

休館日：月曜日、年末年始(月曜が祝日の場合は開館、翌平日が休館)

住所：〒453-0872 名古屋市中村区平池町4丁目60-7

連絡先：TEL 052-533-0121 (地球案内人カウンター)

FAX 052-564-3751

URL <https://www.jica.go.jp/nagoya-hiroba/>

JICA北海道 ほっかいどう地球ひろば

ほっかいどう地球ひろばは、道内で初めての国際理解教育・グローバル教育に特化した体験型施設です。

世界を知る!

世界の民族衣装や民芸品、特産品パネルを通じて、世界の多様性や課題、北海道とのつながりを感じよう。

民族衣装の試着や写真撮影もご自由にどうぞ!



世界を変える!

北海道発信の国際協力の紹介や、期間限定の様々な展示とおして、世界について学ぶことができます!

食べてつながる!

レストラン地球こうさてんでは、世界各国の味をワンプレートで味わえる「地球ランチ」が人気。食べて世界とつながろう!



世界とつながる!

「持続可能な開発目標SDGs」の課題を見てさわって体験する展示がたくさん!



身近な国際協力の一つ フェアトレード!

レストラン地球こうさてんでは、公正な取引を経て販売されるフェアトレード製品を取り扱っています。買い物を通してフェアトレードを応援しよう!

開館時間：10:00~17:30 (年中無休)

レストランカフェ 地球こうさてん 11:30~20:00

住所：〒003-0026 北海道札幌市白石区本通16丁目南4-25

連絡先：TEL 011-866-1515 (地球案内人) TEL 011-866-8676 (地球こうさてん)

FAX 011-866-8382 URL <https://www.jica.go.jp/hokkaido-hiroba/>



I. 国際協力に関心のある皆様へ

話を聞いてみよう!

開発途上国の現場で国際協力に携わったJICAの関係者を講師として学校や地域などに派遣し、開発教育、国際理解教育に役立てていただいています。

JICA国際協力出前講座



毎年全国で約2,000件、受講者は約20万人にのぼります。現場で活躍した人材だからこそその貴重な体験談をお届けし、受講者の質問にお答えします。

～学校からの依頼が多いテーマ例～

- ① 開発途上国の文化や生活を知り、自分たちの生活を見つめる
- ② 世界が直面している問題や開発途上国が抱える課題にふれる
- ③ 国際協力活動を通じて自分にできることや将来について考える

環境、命、人権、
進路、多文化共生、
食育、スポーツ...

先生の感想

- 実際に海外で活躍された方の話は説得力があり、現地の映像を使った生の情報に子どもたちは引き込まれた。
- 協力隊を身近に感じる事ができた。国際的な場で働く道を開ききっかけになればと思う。

子どもたちの感想

- 「平和」というのは、貧しくないとかではなくて、笑って毎日が過ごせることだと感じた。
- 勉強が嫌だと言ったり、自分のやりたいことだけやるのではなく、良い環境にいる私たちが勉強し、少しでも多くの人々が苦しまない方法を考え、助けるべきだと思った。

地球ひろば 出前講座

検索

途上国からの研修員や青年たちとの交流

各国内機関で受け入れている、途上国からの技術研修員と、地元住民との交流を通し、お互いの理解と信頼を深めることを目的としています。



生徒と一緒に理科の実験をするアフリカの青年研修員 (JICA九州)

対象 学校、地方自治体や国際交流団体の市民講座、NGOなどの学習会など

派遣講師 JICAボランティアの経験者、JICA職員、JICA国際協力推進員、途上国からの技術研修員など

※講師の交通費・謝金については依頼元にご負担をお願いしています。(詳細はお問い合わせください)

参加してみよう! 全国のさまざまなイベント・プログラム

JICAでは、年間を通じてたくさんのイベントやプログラムを実施しています。子どもから大人まで、幅広い方を対象としたさまざまなイベントがありますので、ぜひ気軽にお越しください。

グローバルフェスタJAPAN

10月6日の「国際協力の日」にちなみ、毎年10月に東京で開催されるイベントです。国際協力に携わる団体やNGOなどが多数出展します。JICAブースでは、来場者の方の各種相談に応じたり、様々なワークショップを実施しています。また、全国各地でも毎年同様のイベントが開催されます。



JICAブースではボランティアや職員になる方法、活動の内容などの質問にお答えします

市民を対象としたセミナー

世界のことや国際協力について学び、理解を深められるようなセミナーを随時実施しています。

例:北海道士幌町は共通産品の「シーベリー」をきっかけにキルギスと交流を深めています。草の根技術協力事業(地域活性化特別枠)にも採択されたことから、道の駅と共催して、地域の方々を対象にイベントを開催。キルギス料理の提供をはじめ、フェルトなどのOVOP(一村一品)商品を販売したほか、JICA専門家や青年海外協力隊員が関わるOVOP事業の紹介を通じて、キルギスや国際協力について理解を深めてもらう機会となりました。



キルギスのバザールを再現

JICAインターンシップ・プログラム

JICAでは、国際協力関連分野に興味のある大学生・大学院生・医療職人材を対象に、JICAの各部署や海外のプロジェクトでのインターンシップを実施しています。インターンシップを通じて、JICA事業や日本の国際協力に関する理解を深め、将来的にJICA専門家や開発コンサルタント等の国際協力人材を目指していただくことを目的に実施しています。



研究のための圃場に同行

国際協力実体験プログラム

高校生や大学生を対象とした参加型のプログラムです。途上国からの研修員との交流、JICAボランティア体験談、JICA職員からの国際協力についての講習などを通して世界の現状や開発問題について理解を深め、自分には何ができるのか、考える機会を提供します。



研修員の話聞く高校生

全国のJICA国内拠点までお問い合わせください。(17・18ページ参照)

I. 国際協力に関心のある皆様へ

自分の知識や経験を海外で生かす JICA 海外協力隊

JICAには、開発途上国から「隊員を派遣してほしい」という依頼が毎年来ています。

日本には、「自分の知識や経験を開発途上国のために生かしたい」という人がたくさんいます。

JICAは、その架け橋となって、日本から開発途上国に海外協力隊を派遣しています。

1 JICA 海外協力隊の職種は120種類以上

計画・行政、農林水産、鉱工業、人的資源、保健・医療、社会福祉、商業・観光、公共・公益事業、エネルギーなど、職種は大変幅広く、120種類以上あります。

2 応募の流れ

毎年春と秋に募集があります。全国各地で開催される説明会や国内拠点が実施するイベント等で、事業の概要やOB・OGによる体験談などを聞くことができます。選考試験に合格すると、派遣前訓練を経て、赴任国へ派遣されます。

3 JICA 海外協力隊OB・OGの声



稲元 浩子

青年海外協力隊
職種：番組制作
派遣国：ベトナム

同じ目線で向き合い、彼らのいいところを生かす

私はベトナム国営のテレビ局に派遣され、ベトナム初の日本語番組「ジャパンリンク」を担当しました。この番組ではベトナム人キャスターが日本語で、日本とベトナムに関するニュースや文化などを紹介します。私は魅力的な番組作りのため、日本語のアナウンス技術を指導、そしてそれまで個人プレーが主であった配属先で“グループ”で取り組む大切さを伝えました。

例えばアナウンスの基礎力向上を目標にグループ練習会を実施。個々の得意な点を共有してもらい、お互い助け合う状況を生み出し、最終的にはチームワークや自主・自立の気持ちを根付かせることができました。これからもお互い刺激しあい、創意工夫しながらいい番組作りに取り組んでもらえたらと思います。



重吉 倫太郎

青年海外協力隊
職種：野菜栽培
派遣国：フィジー

現地の価値観・文化・環境を考慮し、持続可能なやり方で貢献

私は職業訓練校で農業の授業を担当しました。生徒は先住民系フィジー人。彼らは先祖代々の土地を所有し自給自足に近い生活をしています。私は、彼らが卒業後農業で生計を立てられるよう、「作って売る」ための農業の普及を目標に活動を行いました。

現地の人と共に生活し、言葉や文化・価値観を学ぶうち「フィジーに適した植物モリンガ」を提案することに。元々食べる習慣がなかったので、モリンガ料理を振る舞うなど地道な活動を行い、徐々に浸透していきました。

現地の人や生活を理解し、持続可能な方法を提案する。継続するかを決めるのは現地の人々。工夫しながら、彼らに合った方法で普及していったらと思います。

4 現職の先生が協力隊に参加しやすい制度があります

JICAでは、現職の先生が協力隊に参加しやすいよう、文部科学省と協力して「現職教員特別参加制度」を実施しています。これまで本制度を活用して、たくさんの先生が途上国で活躍し、帰国後も教育現場で協力隊経験を活かしています。

本制度の主な特徴は以下のとおりです。

- ① 協力隊の参加期間が2年間（応募翌年の4月から2年後の3月下旬まで）
- ② 学校長の推薦を得て応募
- ③ 各都道府県・政令指定都市の条例に基づき「派遣」



協力隊に参加することで、以下のような教員として資質・能力の向上が期待できます。

- ① コミュニケーション能力の向上⇒分かりやすい授業の実践
- ② 問題への対処能力の向上⇒問題解決的な学習活動の実施
- ③ 日本の教育の再認識⇒他国の教育経験を踏まえて日本の教育の質の向上
- ④ 異文化理解の向上⇒「内なる国際化」の実現

応募の条件等の詳細はJICA海外協力隊のホームページをご覧ください。

5 現職参加を後押し

JICAでは協力隊に参加しやすい環境をつくるため、官公庁や企業、学校などの所属先での身分を有したまま参加する「現職参加」を推奨しています。

有給・無給に関わらず現職参加する場合、JICAは所属先に対し、覚書を締結することを前提に、参加者の雇用を継続するために必要な社会保険料等の経費の一部として、「現職参加促進費」を定額で支給します。現職参加を考えている方は、派遣中の身分について勤務先とあらかじめよく相談されることをお勧めします。

JICA海外協力隊の種類

JICA海外協力隊の案件は、派遣される期間、専門性、活動する地域・コミュニティにより、以下の5つに大別されます。

長期：派遣期間が1～2年、年に2回（春・秋）の募集期がある案件です。

【一般案件】

「自分の技術・知識・経験を生かしたい」という強い意欲を持つ方に、広く「職種」で応募していただく案件です。46歳以上の方は「海外協力隊」という呼称で派遣されます。

青年海外協力隊

「開発途上国」の人々と同じ言葉を話し、共に生活・協働しながら、国づくりのための協力をします。

日系社会

青年海外協力隊

「日系社会」の人々と共に生活・協働しながら、中南米地域の発展のために協力しています。

【シニア案件】

「自分の専門的な技術・知識・経験を生かしたい」という強い意欲を持つ方に、「個別案件」へ募集していただく案件です。合格された案件によって派遣呼称が決まります。

シニア海外協力隊

「開発途上国」の人々と同じ言葉を話し、共に生活・協働しながら、国づくりのための協力をします。

日系社会

シニア海外協力隊

「日系社会」の人々と共に生活・協働しながら、中南米地域の発展のために協力しています。

対象年齢 20～69歳

短期：派遣期間が1カ月～1年未満、年に3回（3月～・8月～・11月～）の募集期（予定）がある案件です。

JICA海外協力隊（短期派遣）

「開発途上国」で1カ月～1年未満の活動をします。

対象年齢 20～69歳

I. 国際協力に関心のある皆様へ

途上国の人々のために日本でできるボランティア

「途上国の人のために何かしたい」「でも、何ができるのだろう?」こんなことを思った経験はないですか?
JICAには、そんな気持ちに応えるプログラムがあります。

「世界の笑顔のために」プログラム

JICAでは、物品を世界の人々に送る「世界の笑顔のために」プログラムを行っています。青年海外協力隊などのJICA海外協力隊を通じて、途上国の人々から要望が寄せられた物品を、日本国内で募集し、世界へ届けるというものです。不用になったものでも、まだ十分に使える状態であれば、世界の国々の役に立ちます。ぜひご参加ください。



日本から送られた野球道具を手に喜ぶ子どもたち。スリランカでは少しずつ野球が普及しています。



Warm Heart Of Africa(アフリカのあたたかい心)と呼ばれるマラウイで、鍵盤ハーモニカを真剣に演奏する生徒たち。一生懸命練習し、全校生徒の前で披露しました。

※毎年、途上国の人々が必要としている物品を「募集物品リスト」にまとめて、JICAホームページに掲載しています。

「世界の笑顔のために」プログラムに関する詳しい情報はこちら <https://www.jica.go.jp/partner/smile/index.html>

世界の人々のためのJICA基金

JICAでは、国際協力に関心のある市民や法人・団体からの寄附金を受け付けています。いただいた寄附金は、開発途上国の人々の貧困削減、医療や教育の提供、環境問題の解決などに取り組む、主にNGO/NPOの活動支援にあてられます。また、アフリカ地域への支援には「JICA基金(アフリカ支援)」も設けています。このほか、アフリカ地域の医療向上に顕著な貢献をされた方を表彰する「野口英世アフリカ賞基金」への寄附も受け付けています。JICAでは、皆様からお寄せいただいた寄附金を、皆様の想いととも途上国の人々に届けています。



JICA基金についての詳しい情報はこちら <https://www.jica.go.jp/partner/private/kifu/index.html>、フリーコール0800-100-5931

NGO等での協力

ODAのほかにも、NGO等による援助も盛んに行なわれています。現在、国内には約400の国際NGOがあり、各団体が様々な対象国と活動分野で支援活動を行っています。日本事務所での手伝いや、募金など様々な形で国際協力に携わることができます。

お問い合わせはこちら：NGO相談員(外務省ホームページ)(参考)

- ・国際協力NGOセンター(<http://www.janic.org>)
- ・関西NGO協議会(<http://www.kansaingo.net/>)
- ・名古屋NGOセンター(<http://www.nangoc.org>) など

国際協力について考えるきっかけに

次の世代を担う中学生・高校生を対象に、開発途上国の現状と国際協力の必要性について理解を深め、国際社会の中で日本は何をすべきか、また自分たちひとりひとりがどう行動すべきかについて考えてもらうことを目的として、国際協力に関するエッセイコンテストを実施しています。

JICA国際協力中学生・高校生エッセイコンテスト

テーマの例	「世界とつながる自分～私たちが考えること できること～」 「私たちと地球の新しい未来」
賞	上位入賞者には、海外研修。応募者全員に参加賞あり
募集期間	6月～9月頃



エッセイコンテスト表彰式の様子(2018年中学生の部)

〈2018年度 最優秀賞 受賞者 瀬川大地さんの海外研修の感想〉

ベトナムのバリアフリー事情



私は今回のベトナム研修で、「発展途上国」と呼ばれる国に初めて訪れた。車いす利用者である私が、バリアフリー環境が整備されていない途上国で移動するには、様々な問題が生じることが想定されたため、訪問を躊躇していたからだ。今回は、幸いにも出発前、JICAの方と入念な打ち合わせをさせていただき、なんとか参加が実現した。そして、訪れてみると、やはりバリアフリー環境の欠如は痛感せざるを得なかった。市内はインフラが整っておらず、バイクがひっきりなしに道路や歩道を通り、路肩にも無造作に停められていた。これでは街中を車いすで移動することも困難を強いられる。このような状況で、日本から車いすを送ったとしても、障がい児がそれに乗って街中を不自由なく移動することは難しいだろう。道路の舗装やエレベーターの整備など、一体的な都市計画の実施は不可欠だと感じた。しかし、ベトナムの人々は、非常に優しく相手への思いやりがある。街中で助けてもらう場面も多々あった。もし、環境が整っていない状況に置かれても、人と人が助け合えばどうにか乗り越えることができる。バリアフリー化の一番の近道は、やはり人の心を変えていくことなのだと思えて実感した。

Ⅱ. 教育関係者の皆様へ

グローバル化する社会に対応していくため、学校教育における開発教育・国際理解教育の果たす役割はますます重要となってきました。JICAでは、開発教育・国際理解教育の実践やより一層の充実を目指す教員の皆さまのために様々な情報を提供します。

【教師海外研修 実際に現地を見て学ぶ】(JICA国内機関主催)

国際理解教育・開発教育に関心を持つ先生を対象に、10日間ほど開発途上国を訪問し研修を行います。途上国が置かれている現状や国際協力の現場、開発途上国と日本との関係に対する理解を深め、その経験をもとにした教材作成や授業実践の報告会を含むプログラムです。毎年全国で約170名の教師が世界各国で研修を行っています。

(2019年度後援：文部科学省、外務省、各都道府県・政令指定都市教育委員会)

プログラム例



ラオス ドンコー村訪問。
子どもとの交流、ホームステイ



アマゾン熱帯雨林地帯の中央部
マナウス 地元の人と盆踊り

- ▶ 募集期間：毎年4月～5月
 - ▶ 国内研修：6月～7月(1～2回)・海外研修出発前日
 - ▶ 海外研修：8月(約10日間)
 - ▶ 帰国時研修：海外研修後約1か月以内(1～2回)
 - ▶ 授業実践報告会：1～3回
- ※帰国後の授業実践と報告書の提出を行います。
※安全状況によっては国内研修に変更する場合があります。

参加した教員の感想

最終日、参加した教員たちの顔が一番いきいきしているように感じた。知る喜び、考える楽しさ、達成感を実感できるような充実した研修であった。子どもたちがこのような顔になるような授業をしたいと強く感じた。本研修のように、充実した毎日を子どもたちと共に過ごせるよう、よく目を合わせて時間を大切に過ごしていきたい。
帰国された先生方は帰国後、この貴重な学びを授業に還元していきます。

生徒たちの意識の変化

ラオスや外国のことを知るにより具体的に「○○を知りたい・やってみたい」という感想が増えた。自分たちの生活と似ていることや違うところを発見し、学習前の「かわいそう」という考えから「日本と違っておもしろい」と考える児童が多くいた。また、「日本の昔からある遊びは○○だよ」と日本の文化にも着目して考えることができた。(ラオスでの教師海外研修に参加した教員の感想より)

教師海外研修の詳細については、全国のJICA国内拠点までお問い合わせください。(17・18ページ参照)

【国際理解教育／開発教育指導者研修 さらに学ぶ】 (JICA地球ひろば主催)

JICA地球ひろばでは、教師海外研修の参加者などを主な対象者とし、国際理解教育・開発教育の更なる実践や担い手の育成を目的とした研修を実施しています。

開発教育・国際理解教育への興味・関心の高い全国の先生方を対象に、専門家をアドバイザーとして、年に2回(前期・後期)国内研修を実施しています。
(後援：日本国際理解教育学会)

○2019年度研修の様子(2019年8月)

テーマ「SDGs/国際協力」と「多文化共生」

新学習指導要領を踏まえ、授業づくりをする上での重要なポイントを学ぶと共に、授業で活用できる様々な教材・教具や地球ひろばの展示を活用した事前・事後学習の事例にも触れました。また、多くの学校教員の方々の参考になるよう、「汎用性」を意識した授業の指導案づくりを共に考えました。

詳細はJICA地球ひろばまでお問い合わせください。(17・18ページ参照)

【開発教育指導者研修 (JICA国内機関主催)】

国際理解教育・開発教育に関心のある教員の方々、NGO等を対象に、国際理解教育・開発教育の担い手の育成を目的とした研修を実施しています。地域に根付いた研修から、教材の作成と活用方法、参加型学習の手法等、実践的な手法を学びます。詳しくはお近くのJICA国内拠点にお問い合わせください。

○【実施報告】 2020年度JICA中国 開発教育教員研修 アドバンスコース フィールドワーク

このアドバンスコースに参加した先生方は全員、JICA中国の教師海外研修に参加歴があり、海外研修での学びを活かした授業実践を行っています。校種や経験年数、そして感じ方や考え方も異なるメンバーでより良いものを作るにはどうしたら良いか、これからの進め方や教材のねらい・趣旨など、様々な意見が飛び交い、白熱した協議が展開されました。



詳細は全国のJICA国内拠点までお問い合わせください。(17・18ページ参照)

【先生のお役立ちサイト】

JICA地球ひろばでは、教員向けのお役立ちサイト「開発教育・国際理解教育サイト」で、開発教育・国際理解教育の実践、および一層の充実を目指す教員の皆さまのために、様々な情報を提供しています。

国際理解教育に関する授業の指導案や実践事例・教材・国際社会の情報等を掲載していますので、ぜひご覧ください。



国際理解教育・開発教育教材

教育現場での国際理解教育などに役立つ教材を無料で提供しています。JICA地球ひろばのホームページでもダウンロードすることができます。



「学校に行きたい!」

世界には学校に行けない子どもが6,700万人もいると言われています。世界の子どものことを知り、国際協力について考えるきっかけとなる教材です。(小学生向け)



「国際理解教育実践資料集」

国際社会が取り組むべき地球規模の課題について、イラストや図を使って分かりやすく解説しています。教員向けページには学習のねらいや資料のポイント、学習指導要領との関連などを掲載しています。(教員向け)



「ぼくら地球調査隊」 (小冊子)

環境、感染症、教育、食料問題など、私たちの身近に迫っている地球規模の課題について、マンガを読みながら学ぶことができます。



「SDGs冊子教材 共に作る私たちの未来」

SDGsの基本を、日本の国際協力や各国の子どもの紹介も交えて学べる教材です。各ゴールについて、関連データや最初の一歩となる問いも掲載しており、学校などでSDGsを扱う際にそのまま活用できます。

開発教育メールマガジン

JICA地球ひろばでは、開発教育・国際理解教育に携わる方を対象としたメールマガジンを配信しています。教員の開発教育・国際理解教育の授業実践内容の紹介や、有識者によるコラム、JICAが実施するイベント情報などをご覧ください。

配信は無料ですので、お気軽にご登録ください。登録をご希望される場合、JICA地球ひろばのHP内にある「国際理解教育・開発教育サイト」からお問い合わせください。

JICA地球ひろば 先生

検索



JICAと一緒に国際協力を実践しよう!

草の根技術協力事業は、NGOや地方自治体、大学などが、これまで培ってきた経験やノウハウをもとに企画したアイデアを、JICAが支援し、共同で実施する事業です。

草の根技術協力事業



東ティモールの診療所で働く日本人看護師
(写真提供：今村健志朗)

地方自治体

地域活性化型

地域の技術・経験を活かす

- 随時受け付け、ただし選考は年2回
- 3年以内 ● 総額6000万円以内

国際協力の
経験が少ない
NGO等非営利団体、
大学、公益法人
など

草の根協力支援型

国際協力の第一歩

- 随時受け付け、ただし選考は年2回
- 3年以内 ● 総額1000万円以内

国際協力の
経験が豊富な
NGO等非営利団体、
大学、公益法人
など

草の根パートナー型

豊富な経験を活かして

- 随時受け付け、ただし選考は年2回
- 5年以内 ● 総額1億円以内

ケース1 モンゴル・日本の野菜栽培・加工技術による農民の収入向上 (地域活性化特別枠・実施団体:北海道滝川市)



直売所併設の加工室での指導の様子
(写真提供：滝川国際交流協会)

モンゴル国では、野菜の生産コストの高さ・自給率の低さから農家の所得が低く、同国ウブスハンガイ県の平均農家収入は同国一般家庭の平均の半分にも達していません。この事業では農家の所得向上を目指し、玉ねぎ収穫の技術改善や農産物の加工技術・販売技術の指導を行いました。結果、玉ねぎの収穫サイクルが2年から1年に短縮されたうえに1haあたりの収穫量が約48%増加。直売所での加工品販売も始まりました。さらにこの事業をきっかけに同県と建設分野の連携も開始し、将来的に技能実習生を滝川市に受け入れることも予定しています。今後、現地では雇用と技術の習得、滝川市では外国人財の活用、というwin-winの人財交流が行われることが期待されています。

ケース2 ラオス・スポーツを通じた障害者の社会参加促進 (草の根パートナー型・実施団体:NPO法人アジアの障害者活動を支援する会(ADDP))

ラオスの地方在住の障害者の多くは、未だ家族の庇護の下でひっそりと生活し、社会参加の機会が閉ざされた状況にあります。本事業では、障害者スポーツを通して彼らの自信や誇り、さらには就業意欲を醸成することを目的に、障害者スポーツ指導者の養成、ユニバーサルスポーツイベントの開催等に取り組みました。その結果、ラオス全県に障害者スポーツ普及員が配置され、50名以上の障害者アスリートを育成することができました。また、ラオスで実施したユニバーサルスポーツイベントを日本国内でも開催した他、Tokyo2020のホストタウンとラオスチームの交流を支援する等、日本国内にも波及効果をもたらしました。



車いすバスケットボール女子チーム
(写真提供：ADDP)

皆さんの活動をサポートします

NGO/CSO、公益法人、教育機関、地方公共団体、任意団体等の皆さんが、より効果的で発展的な事業を実施・推進するため、様々な形で研修等のプログラムやサポートを行っています。

NGO・地方自治体等のためのプログラム

JICA企画型プログラム

■NGO等事業マネジメント研修

事業サイクルマネジメントの考え方をを用いて、草の根技術協力事業等を念頭に置いた事業計画の検討や事業の実施（モニタリング）・評価ができるようになることを目指す研修です。

■NGO等向け現地調査実践研修

草の根技術協力事業の概要および当該事業等の計画・立案に際し、現地調査を行う目的や方法、分析の手段など、効果的な現地調査に必要なポイントを理解し、現地調査結果を踏まえた説得力のある事業提案書を作成することを目指す研修です。

■NGO等向け草の根技術協力事業 モニタリング・評価実地研修

事業サイクルマネジメントの考え方・手法を再確認し、開発途上国で現在進行形で実施中の事業計画書を基に、より効果的に事業が実施できるようになることを目指す研修です。

各研修活用団体の声：

途上国現地の状況と自分たちの事業の提案書を整理して結び付けられるようになったことに加え、具体的な現地での調査方法を学ぶことができ、調査結果を草の根技術協力事業の提案につなげることができました。

NGO等提案型プログラム

各地域や分野のNGO等が抱える特有の課題などへ細やかに対応するため、NGO等向けの研修やネットワークの構築に関して実績があるNGO等からアイデアと運営協力を得ながら、研修等を実施します。

過去の実施内容: https://www.jica.go.jp/partner/ngo_support/ngo_proposal/adoption.html

現地の活動サポート

■NGO-JICAジャパンデスク

世界20カ国に窓口を設置し、開発途上国の現場で国際協力活動を行う日本のNGO・NPO、公益法人、教育機関、自治等の団体（NGO等）の支援及びNGO等とJICAの連携促進のための業務を行っています。



草の根技術協力事業実施団体とカウンターパートが実施計画見直しのための議論を行う様子。



現地調査に行く前に、草の根技術協力事業の事業構想を整理している受講者の様子。

IV. 国際協力に関する情報はこちらから

ほかにもいろいろ! 国際協力に関わりたい人のために

- 国際協力の世界にはどのような仕事があるのか知りたい!
- 国際協力の世界で活躍するために必要な知識を得たい!
- 国際協力の現場での経験を日本で活かしたい!



PARTNER
国際キャリアへ、学び、つながり、働こう。

PARTNERとは
グローバル人材や企業が集まる
国際キャリアの総合情報サイトです

今すぐ登録!

<http://partner.jica.go.jp>

様々なステップに合わせた魅力的なコンテンツがいっぱい!
登録するとこんなサービスが活用できます

求人情報の検索・応募

JICA、国際機関、NGO、民間企業、地方自治体等の求人を毎月約300件掲載。
地域や職種で検索して応募することが可能!

研修・セミナーの検索・応募

登録団体が主催する全国各地の研修・セミナーイベント情報を毎月約100~150件掲載。
登録時に興味のある分野を選択すると、最新の情報がメールで届く!

キャリア相談

国際キャリアにおける自身の目標にむけたキャリア形成や、自身のもつ経歴・スキルの活かし方について等、キャリア相談員に直面、Skype、グループ、メール等で直接相談ができる!

豊富なコンテンツ

グローバルに活躍する人のコラムや、国際協力の専門誌記事等、国際キャリアのスキルアップに関わる豊富なコンテンツを掲載!



今すぐ
登録!

PARTNERではこれらのサービスをすべて **“無料”** でご利用できます。
あなたの国際協力の世界で活躍する夢の実現に是非ご利用ください!

<http://partner.jica.go.jp>



独立行政法人 国際協力機構 (JICA)
国際協力人材部 PARTNER事務局
〒162-8433 東京都新宿区市谷本村町10-5 JICA市ヶ谷ビル
<http://partner.jica.go.jp>

大学生・社会人はコチラ!



中高生はコチラ!



国際協力の最新情報や各種資料が揃っています

JICA図書館

国際協力に関する専門図書館で、JICA発行の報告書、調査資料、映像資料に加え、国際機関の資料など開発協力・経済協力に関する発行物も体系的に整備しており、いわばODA情報の宝庫です。JICA関係者だけでなく、どなたでも入館・閲覧できます。

ポータルサイト (<https://libportal.jica.go.jp/fmi/xsl/library/public/index.html>) から利用案内や所蔵情報などの詳細をご覧いただけるほか、各種資料のダウンロードもご利用できます。

開館時間 平日10:00～17:30
休館日 土日祝日・月末最終平日、年末年始(12/28～1/3)
館内整理日(毎月末日。ただし、他の休館日に当たっている場合はその前日)
場所 〒162-8433 東京都新宿区市谷本村町10-5
JICA市ヶ谷ビル1階 TEL: 03-3269-2301 / FAX: 03-3269-2421
E-mail: jicaica-lib@jica.go.jp

全国各地のJICA国内機関にも「図書館資料室」があります。また、国内機関のほか、全国の公共・学校・大学図書館から上記のJICA図書館(東京)所蔵の資料を取り寄せることもできますので、お気軽にご相談ください。

JICAホームページ/ソーシャルメディア

開発途上国が抱える課題の解決に向けたJICA事業やさまざまな取り組みのほか、国際協力の基礎知識や専門知識、市民参加メニューまでカバーしています。

JICAの最新情報はウェブサイトへ
<https://www.jica.go.jp/>



@jicapr



@jica_direct



JICA Channel1

その他の情報については下記ウェブサイトをご参照ください。

JICA地球ひろば <https://www.jica.go.jp/hiroba/>

NGO等支援事業 <https://www.jica.go.jp/partner/ngo/>

草の根技術協力事業 <https://www.jica.go.jp/partner/kusanone/>

JICA海外協力隊 <https://www.jica.go.jp/volunteer/>

国内機関 <https://www.jica.go.jp/about/structure/domestic.html>

国際協力推進員 <https://www.jica.go.jp/about/structure/suishin/>

JICAメールマガジン

国際協力に関心のある方に向けて、地球ひろばや国内機関などからJICAの事業速報や最新情報、募集案内、イベント情報などをお届けしています。

詳細・お申し込みはコチラから

<http://www.jica.go.jp/mail/index.html>

IV. 国際協力に関する情報はこちらから

全国各地にJICAの相談窓口があります

本部

〒102-8012 東京都千代田区二番町5-25
二番町センタービル
TEL:03-5226-6660~6663(代表)

JICA市ヶ谷ビル

〒162-8433 東京都新宿区市谷本村町10-5
TEL:03-3269-2911(代表) FAX:03-3269-2054
JICA 研究所のほか、国際協力に携わる人々の業務支援を目的とした
JICA 図書館や地球ひろばなどを併設。

●国内拠点・地球ひろば

① JICA北海道(札幌／ほっかいどう地球ひろば)

〒003-0026 北海道札幌市白石区本通16丁目南4-25
TEL:011-866-8333(代表) FAX:011-866-8382

① JICA北海道(帯広)

〒080-2470 北海道帯広市西20条南6丁目1-2
TEL:0155-35-1210(代表) FAX:0155-35-1250

② JICA東北

〒980-0811 宮城県仙台市青葉区一番町4-6-1
仙台第一生命タワービル15階
TEL:022-223-5151(代表) FAX:022-227-3090

③ JICA二本松

〒964-8558 福島県二本松市永田字長坂4-2
TEL:0243-24-3200(代表) FAX:0243-24-3214

④ JICA筑波

〒305-0074 茨城県つくば市高野台3-6
TEL:029-838-1111(代表) FAX:029-838-1119

⑤ JICA東京

〒151-0066 東京都渋谷区西原2-49-5
TEL:03-3485-7051(代表) FAX:03-3485-7904

⑥ JICA地球ひろば

〒162-8433 東京都新宿区市谷本村町10-5
TEL:03-3269-2911(代表) FAX:03-3269-9020

⑦ JICA横浜

〒231-0001 神奈川県横浜市中区新港2-3-1
TEL:045-663-3251(代表) FAX:045-663-3265

⑧ JICA駒ヶ根

〒399-4117 長野県駒ヶ根市赤穂15
TEL:0265-82-6151(代表) FAX:0265-82-5336

⑨ JICA北陸

〒920-0853 石川県金沢市本町1-5-2 リファール(オフィス棟)4階
TEL:076-233-5931(代表) FAX:076-233-5959

⑩ JICA中部(なごや地球ひろば)

〒453-0872 愛知県名古屋市中村区平池町4-60-7
TEL:052-533-0220(代表) FAX:052-564-3751

国内拠点の所在地やくわしい内容はこちら <https://www.jica.go.jp/about/structure/domestic.html>

各都道府県の窓口 ～国際協力推進員～

JICAでは、JICAと皆さんの地域を結ぶ窓口として、全国に「JICAデスク」を設け、「国際協力推進員」を配置しています。国際協力推進員の多くは青年海外協力隊や日系社会青年ボランティアの経験者で、現地で培った経験や知識などを皆さんの地域で生かし、JICA事業の推進に励んでいます。

主な活動

- (1) 自治体などと連携した国際協力事業の広報啓発活動の推進
- (2) 自治体・大学・NGOなどが行う国際協力事業と連携推進
- (3) 草の根技術協力事業の推進
- (4) 民間連携事業の推進
- (5) 開発教育(国際理解教育)支援業務の推進
- (6) ボランティア事業への市民参加促進、応募相談及び帰国ボランティアの活動支援・推進
- (7) 研修員受入先の開拓支援・推進



北は北海道から南は沖縄まで、個性豊かな推進員が全国各地で活躍しています!

全国50カ所で活動する国際協力推進員の連絡先などはこちら <https://www.jica.go.jp/about/structure/suishin/index.html>

⑪ JICA関西

〒651-0073 兵庫県神戸市中央区脇浜海岸通1-5-2
TEL : 078-261-0341 (代表) FAX : 078-261-0342

⑫ JICA中国

〒739-0046 広島県東広島市鏡山3-3-1
TEL : 082-421-6300 (代表) FAX : 082-420-8082

⑬ JICA四国

〒760-0017 香川県高松市番町1-1-5 ニッセイ高松ビル7階
TEL : 087-821-8824 (代表) FAX : 087-822-8870

⑭ JICA九州

〒805-8505 福岡県北九州市八幡東区平野2-2-1
TEL : 093-671-6311 (代表) FAX : 093-663-1350

⑮ JICA沖縄

〒901-2552 沖縄県浦添市字前田1143-1
TEL : 098-876-6000 (代表) FAX : 098-876-6014



**各国内拠点・地球ひろばのウェブサイト、
ソーシャルメディアをご活用ください。**



イベントや最新ニュースを発信中です。

各ソーシャルメディアもご活用ください。





独立行政法人 国際協力機構
広 報 室

〒102-8012 東京都千代田区二番町5-25 二番町センタービル
TEL : 03-5226-6660～6663(代表) <https://www.jica.go.jp/>



印刷は大豆インクを使用しています。

このパンフレットは古紙配合率100%の
再生紙を使用しております。

2021年2月